



早いもので10月をむかえました。

秋は日毎に深まりを見せてくれます。こどたちの活動と、日毎に屋外から園舎の中へと移りはじめます。

登降園の際に使うフリースのジャンパーとか、玉糸の帽子など、ご家庭で冬仕たくに忙しくなります。どうぞよろしくおねがいいたします。

■コロナ対策として、こどたちの毎日の生活

に制約をしてきました。

今年は3年目をむかえ、国の対策と効果を挙げてあります。

この4月から、少しずつ制約を緩和してきました。

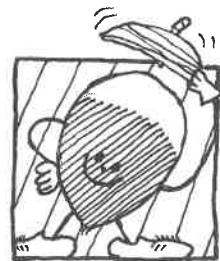
こどたちの遊びの面で大きな育ちがある「ホール」と「園庭」をコロナ以前に戻して、どの子も自由にあそべるように、9月の後半から実施しております。

大変なにぎわいです。

年令が“たての喜び”！

きょうだいで“あそべる喜び”！

これまでと違った楽しさと喜びがホールと園庭にあふれるようになって



きました。

当然、年少児たちは、年中児や年長児たちの遊びのひとつひとつに大きな刺激を受けるし、これが遊びを始めたときの仲間入りです。

「面倒見でない」「面倒見てあげる」

と言う育ち合はぬきのひとつの場面があちこちで！

■園庭の芽生のやわらかさを上手に使ったこどたち、側転やさか立ちのレベルUPに大きな効果がありました。

こんな光景もありました。

ちゅうりっぷ組のティキに集まつた10人ほどの年中組の女の子たち、丸く輪になって両手に水筒！

「いち、にの力ハッペイ！」と雄叫びのよう声をあげてゴクゴク！ びっくりしました！

(心の育ちシリーズ)

栄養のある言葉をここに！

小学生の兄弟が引きで捕獲され、連絡を受けた福岡警察署の少年係安永智美警察官が面会した。兄弟は常習犯で父親の暗示だった。父親は逮捕され、兄弟は児童相談所に保護された。兄は安永さんにちみつけ、弟は泣きじゃくっていた。

安永さんは二人の息子が居た。「あの子たちの笑顔が見たい」と思い続けて3ヶ月が過ぎた。

ある日、息子たちがカブト虫に夢中だった。無断でカブト虫を一匹取り出して、ついで児童施設へ行った。

「すげえ！」「すげえ！」と二人ははじめて笑顔を見せた。安永さんは二つの約束をさせた。カブト虫の世話と仲間が見せてと言ったら見せてあげること。

2週間後、施設へ行くと二人は見ちがえるようになっていた。カブト虫の世話と仲間に見せてあげることを職員から「えいねえ！」とほめられ、仲間から「ありがとう！」と今まで言われたことが無い言葉を沢山もらっていた。

安永さんはどんな子にも説教をしない。

絶対に言つていけない言葉があると言う。

「いつまで泣いているの！」

「そうお姉ちゃんなんだからそばにきて泣かないの！」

こどには栄養のある言葉をあげたいですね。

—みやざき中央新聞より—